

# いしづち

2022.9

SEPTEMBER

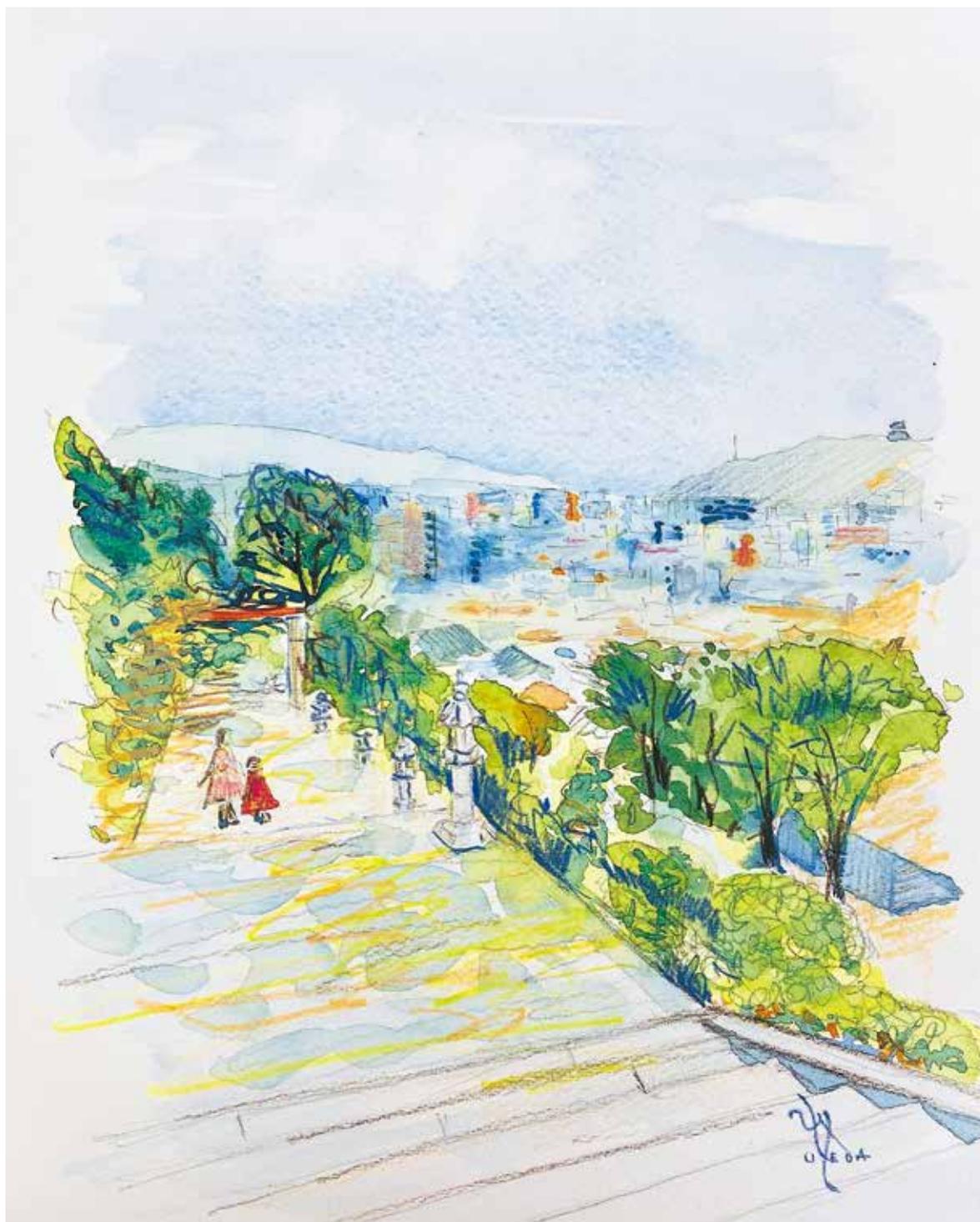
No.148



公益社団法人 愛媛県建築士会

Ehime Society of Architects & Building Engineers

<http://www.ehime-shikai.com>



会長就任挨拶・退任挨拶  
道後温泉の源泉について (昭和時代編)  
世界建築紀行

夢のファーストクラスで行くニューヨーク

MISSリバティの「クラウンアクセス」

1	会長就任挨拶 会長退任挨拶	会長 尾藤 淳一……① 名誉会長 赤根 良忠……②
2	道後温泉の源泉について（昭和時代編）	文化財・まちづくり委員会 委員 花岡 直樹……③ 一級建築士 野本 健……③
3	世界建築紀行 夢のファーストクラスで行くニューヨーク Missリパティの“クラウンアクセス”	西予支部 松山 清……⑩
4	知床旅情	会長 尾藤 淳一……⑰
5	委員会活動報告 恒例！愛媛県建築士事務所協会と親睦合同ゴルフコンペ 「青年・女性建築士の集い 中四国ブロック高知大会」地域実践活動報告 令和4年度女性会員総会報告 全国女性建築士連絡協議会 分科会「愛媛の古建築を訪ねての本ができるまで」報告	総務・企画委員会 委員長 井上 竜治……⑱ 青年委員会 委員 大内 雄志……⑳ 女性委員会 委員長 下元 美恵……㉑ 松山支部 西浦 郁子……㉒ 元編集委員 松山支部 峰岡 秀和……㉒ 女性委員会 副委員長 永井 由起……㉓ 令和2～3年度連合会 女性委員 大塚美由紀……㉓
6	支部報告 松山支部より 三津浜を散策しながら親睦を深めよう！	松山支部 支部長 花岡 直樹……㉔ 松山支部 南地区 高須賀範昌……㉕
7	けんちくの輪 好きなこと。 建築今昔と私	松山支部 西山 ゆか……㉖ 宇和島支部 池田千代一……㉗
8	お知らせ 令和4年度通常総会概要報告 第2回理事会概要報告	事務局……㉘ 事務局……㉘

※尚、表紙及び本誌記事の無断転載を禁じます。

### 水彩画



題：「松山神社」(松山市祝谷東)

元和4年(1618年)松山城主加藤嘉明が湯築八幡宮の境内に小祠を建て、徳川家康公の神霊を祭祀し、その後、明和8年(1765年)に松山藩主松平定静が祝谷の田高の丘(現在地)に社殿を造営奉遷し「東照宮」と称え、城下の鬼門鎮護の神として崇敬した。  
明治43年12月に東照宮に天満神社を合祀して、「松山神社」と改称した。現在の社殿は元治2年(1865年)に造営されたものであり、典型的な権現造である。  
(令和3年2月 愛媛県指定文化財指定)  
参考文献「愛媛県神社庁のHPより抜粋」

表紙作者 上田 勇一 プロフィール

1974 東京生まれ  
1980 小学校から高校まで松山在住  
1990 東日本建築教育研究会製図コンクールにて奨励賞  
1991 愛媛県内高校生建築競技設計にて会長賞(愛媛県建築士事務所協会主催)  
1993 画家・高橋勉氏に師事。約10年間、古典絵画技法全般を学ぶ  
1996 日本工業大学建築学科 卒業  
1998 画家として活動開始する。東京や埼玉にて毎年個展開催  
2002 日本ファンタジーノベル賞受賞者「世界の果の庭」(新潮社)の装丁担当  
2003 美術家の登竜門である昭和会にて優秀賞(東京/日動画廊)  
2010 愛媛県美術館に作品「ドライブフラワー」收藏される  
2015~17 愛媛新聞 冊子アクリート表紙画連載  
絵画教室やオリジナルブランド額工房「櫛リチエルカ」を設立  
2017 「えひめの塗り絵」を出版  
その他、出版装丁画や受賞多数、全国にて個展中心に活動。  
現在、現代日本美術会 会員/審査員

# 会長就任挨拶

会長 尾藤 淳一



2022年度通常総会においてご承認を頂き、今年度より会長を務めさせていただく事になりました、尾藤 淳一でございます。

私は四国中央市の出身で、本会では青年委員会、情報委員会、教育・事業委員会に所属してまいりました。青年委員長の時

には中国四国ブロックの幹事県として、ブロック大会を主催し、その9年後にブロック大会実行委員長を経験させていただきました。また、平成26年度に支部長を拝命した時に本会理事になり、平成30年より副会長を務めさせていただきました。

考えてみますと様々な会合に参加させていただき、経験を積んできたというより、会員の皆様から助けていただきながら楽しく活動させていただいたと思います。しかし広報や文化財・まちづくり等あまり関わっていない事業もあり、経験がまだ足りないと感じております。これまで愛媛県建築士会を脈々と率いてこられた歴代会長の功績を考えると、改めて責任の重大さを感じているところです。

建築士法が制定されてから70余年が過ぎ、様々な改定がなされてきましたが、まだまだ十分ではありません。建築技術者が健全に能力を発揮できるように、建築士会として声を上げていかななくてはならないと思います。特に建築の技術者資格に施工管理技士が制定されて以来、建築士を志す技術者が減少傾向にある上に、せっかく難関を突破して資格を取得しても、建築士会に入会しない人が多いのも事実です。建築士法の趣旨からすると資格者は全員入会することを前提にしているようにも思えるのですが、実際はそうになっていません。しかも、建築士資格を持つものがいったい何人生存しているのかさえも把握できていない実態があり、本当にここは法治国家なのかと疑問に思うことさえあります。国家資格をマイナンバーに紐づけする検討がなされていると聞きますので、改善の機会にしていきたいと思います。

そのような中、建築技術者の継続的能力開発システムが注目され、CPDの単位が評価されるようになったのは喜ばしい事です。「建築士の資格は、取らないといけ

ないが、とつても食えない足の裏の米粒のようだ」といった人がいますが、逆に資格を取っただけでご飯が食べられるというのは間違いで、社会へ良質なサービスを提供していくためには、日ごろから新しい技術や情報を入手していくことが重要ではないかと思えます。すべての医師がそうだといませんが、熱心な医師は学会に参加するか、学会誌等を購読したりして、常に勉強しているといえます。建築士も社会的な地位を向上させたいのなら、当然そういう努力が必要です。最近では、建築施工管理技士もCPD単位取得のために入会される方が増えてきました。建築士会として会員の皆様の求めるサービスを充実していくために、メニューを増やしたいと思います。

更に申し上げますと、今は所属建築士だけが3年に一度の定期講習を受けるようになっていますが、本来は業務で資格を使うすべての建築士が、必ず履修することとしたほうが、品格が上がるように思うのですが、如何でしょうか。今後の定期講習の在り方などについても、議論していきたいと思えます。

さて、本年で愛媛県建築士会は、公益社団法人になり10年目を迎えています。公益法人として建築士会が果たすべき役割は、事業計画の基本方針で ①建築士の品位の保持 ②業務の進歩改善に資するため、建築技術に関する研修等 ③県民の生命及び財産を建築による災害から守るとともに、利益の保護及び増進並びに建築文化の振興を図り社会に貢献するとあります。このような崇高な理念や方針のもと、会員一同が自信や矜持を持って、活動していくとともに、それぞれの生業についても同様な精神で携わっていただければ、必ず社会に貢献できると信じています。公益法人として、さらにはその会員として、相応しい行動が我々には求められていると思えます。

最後になりますが、愛媛県建築士会は会員減少などの諸課題を抱えていますが、一つ一つ丁寧に解決していき、より一層社会に貢献していきたいと考えますので、会員皆様のご協力をお願いするとともに、私自身は愛媛県建築士会の発展に最大限尽力していくことをお誓いして、会長就任のご挨拶にしたいと思います。これからも宜しくお願いいたします。

# 会長退任あいさつ

あいさつ

1

名誉会長 赤根良忠

早いもので建築士会会長として2期4年が経ちました。振り返ってみると、会長就任時は寺尾前会長の後を引き継ぎ、耐震性不足の旧会館の建て替え建設にスタートを切った時期でした。役員・会員一丸となって何とかこの新しい「建築士会館」建設に取り組み、会員をはじめ関係団体・企業からの寄付もいただき、また建設資金として会員の皆様よりの資金借入れなどにより平成31年5月15日に耐震性を確保した「愛媛県建築士会館」が無事竣工することができました。



事務局の運営はもちろん、理事会・各委員会の活動や応急危険度活動の拠点として、また各種講習会の会場として様々な場面での活用が期待される時でしたが、その頃から、新型コロナウイルスの蔓延によるコロナ禍が始まり、社会生活のみならず建築士会にとっても事業・活動に大きな影響を及ぼしました。

対面で行われていた理事会は書面理事会へと変わり、委員会活動においてはリモート会議へ、講習会は延期や規模縮小での開催等々、対面での会議・講習会がほとんどできませんでした。

令和2年度は中四国ブロックの幹事県として当会が1年間事務を担当することになっていましたが、一度も対面での中四国ブロック会議を開催することができませんでした。青年・女性委員会の「中四国ブロック(愛媛)大会」も準備万端開催を待つのみであったにもかかわらず中止となってしまう残念で仕方ありません。

ご承知の通り当会の通常総会の開催にあっても令和2年度より規模を縮小しての総会開催となり、年に一度県内各支部よりの参加者を交えての懇親会も令和2年度より開催できていません。

連合会副会長の役職も担当しておりましたが、東京での対面会議もコロナ禍の影響で全てがリモート形式となり、今年6月の理事会が最初で最後の全国会長が東京に集結しての会議となりました。副会長退任の挨拶ができた事が何よりでした。

その他、多方面でも新型コロナウイルスの影響を受け、特に建築士会にとって重要な建築士試験においても、会場の確保や、感染防止対策に手を取られ、各種会議や講習会の開催は、全てにおいて感染防止対策をしながら行事を行ってきました。

今まで経験したことのない手間暇が掛かることばかりでしたが、何とか乗り切ることができました。

このような状況の中、在任期間中は尾藤、松山両副会長をはじめ、理事、監事、事務局職員のみなさんに助けて頂きありがとうございました。また会員の皆様には、会の運営に対しご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。会長として十分な任務は果たせずやり残した感はありますが、2期4年の任期を無事終えることができました。

今後は名誉会長として、また一会員として建築士会の発展の役に立てればと微力を尽くす所存ですので、宜しくお願い致します。

# 道後温泉の源泉について

監修：文化財・まちづくり委員会 委員 花岡 直樹  
執筆：一級建築士 野本 健

昭和時代



▲道後温泉（提供：道後温泉事務所）

### <ことわり>

以下記載内容は、現在の道後温泉本館保存修理工事の状況や収集できた文献から総合的に判断した内容を記載している。そのため、調査状況により新たな知見が得られた場合、記載内容に訂正の必要が生じる可能性はある。

## 一部解説

- 源泉** 道後温泉は現在、18本の異なる温度の源泉をかけ合わせて42～43度になるように調整している。
- 分湯場** 道後温泉の各源泉を集約して、道後温泉本館や各旅館・ホテルに配湯する施設。現在は第1分湯場、第2分湯場、第4分湯場、第5分湯場の4つの分湯場がある、昭和59年に椿の湯を建設する際に第1分湯場と第3分湯場が統合されたため、第3分湯場は欠番である。
- 外湯** 道後温泉本館、道後温泉別館 飛鳥乃湯泉、椿の湯のことを指す。昭和初期は旅館・ホテルに温泉を配湯できず、宿泊すれば外の湯に行くという流れから生まれた言葉。
- 内湯** 旅館・ホテルで道後温泉を使ったお風呂のことを指す。上記、外湯と分けるために作られた言葉。

写真提供：道後温泉事務所



▲第1分湯場



◀第4分湯場



第2分湯場▶



▼第5分湯場

## ■ はじまり

昭和時代は現在の道後温泉の配湯の礎を築いた変革期である。湯口からこんこんと溢れ出る道後温泉。この温泉がどのように汲み上がり配湯されているか多くの人は知らない。それは道後温泉の湯量が少なく、1つでも源泉を失えば配湯できない恐れがあるため、長きにわたり秘匿されてきた。

昨今の状況を考えた時、その秘匿性だけでは道後温

泉の源泉を守ることができず、多くの人々に慣れ親しんでもうおうと考え、第4分湯場のように多くの人が観覧できるスペースを設けた。そのような観覧スペースを設けることができない場所については、ここで歴史的な史実を記載し、少しでも道後温泉の源泉について知識を深めていただければ幸いですと執筆を執った次第である。

【分湯場の地図】



# 道後温泉の源泉

昭和時代

## 源泉掘削のはじまり

■昭和2年（1927）に岩崎一高が湯之町の町長に就任すると本格的に源泉の掘削が始まった。岩崎一高は道後温泉の湯量の少なさを危険視しており、大正2年（1913）より自然に温泉が湧出していた道後公園のドンコ堀に目をつけ自費でボーリング工事を行った。当時のボーリング工事は、長い割竹を繋いだ先に錐をくくり付けて掘る幼稚な手法で、「岩崎が針の先で温泉を掘ろうとしても一高に出ん」と揶揄された。しかし、町長に就任すると専門的な機械を導入し掘削を行い、昭和6年（1931）に温度は低かったが湧出を確認した。その後、昭和16年（1941）に枯渇し、終わりを迎えた。昔の地図より、現在の子規記念博物館付近にあったものと考えられる。

いつの時代からかは不明であるが、これ以降の源泉開発の歴史より、道後温泉本館にあった、神の湯源泉と養生湯源泉をまとめて「第1号源泉」と呼ぶようになった。そして、この岩崎一高が発見した源泉は特に番号は付けられず「ドンコ堀」と呼ばれている。

■昭和12年（1937）に日中戦争があり、その傷病者の療養所として道後公会堂が使用された。その患者のために「澤の湯」という浴室を設け、その「ドンコ堀」の源泉を温めて使用していた。ちなみにこの「澤の湯」の名前の由来は掘削当時の岩崎町長の名前にちなんで「岩崎湯」、雅号にちなんで「風雨湯」、そして命名時の町長であった梅木勘三郎の発案の「澤の湯」という候補があり、結果「澤の湯」となった。



▲道後温泉第1号源泉跡（提供：道後温泉事務所）  
平成10年に神の湯浴室を改修した時に第1号源泉を発見した。その源泉跡を後世に残すため、床石にその痕跡を示す刻印を記した。



▲源泉開発の様子（提供：道後温泉事務所）



▲道後公会堂（提供：道後温泉事務所）



▲ 道後温泉の地図 (提供：道後温泉事務所)  
新温泉の横にドンコ堀の文字が記載されている。ドンコ堀源泉はこの近辺にあったものと考えられる。

■ 昭和14年(1939)に温泉増湯計画のため、日本温泉協会の学術委員である小林儀一理学博士を招へいして道後温泉の源泉について調査・研究の依頼を行った。

小林博士の調査結果に基づき、道後公会堂前(現在の子規記念博物館)で「第2号源泉」の掘削を行い、温度が約35度の良好な結果を得ることができた。

■ 昭和16年(1941)に小林博士の調査結果に基づき、「第3号源泉」の掘削を行い、湯量、温度とも良好な結果が得られ、道後温泉本館の各浴槽の温度を引き上げることができた。温度は約48度であった。(現在のユノマチペーカリー付近)

■ 昭和18年(1943)に東京帝大の加藤藤夫理学部教授に掘削予定地の選定を依頼し、昭和19年(1944)に「第4号源泉」の掘削が行われた。湯之町最後の町長、近藤新一の裏庭を用いたものであった。湯量、温度とも良好であったが、「第1号源泉」、「第3号源泉」の湧出量が減少したため、「第4号源泉」の温泉は西湯(現在の椿の湯)、他の源泉の温泉は道後温泉本館、鷺の湯の浴槽に配湯された。温度は約49度であった。(現在の東雲亭付近)



▲ 第2号源泉 (提供：道後温泉事務所)



▲ 第3号源泉  
(令和3年時点)



第4号源泉 ▶  
(令和3年時点)

# 道後温泉の源泉

昭和時代

■昭和20年（1945）日本は敗戦し、戦争は終結した。松山市内は爆撃を受け焼け野原になり、道後地区だけその戦火から逃れることができた。アメリカ進駐軍は多くの施設を接收し、道後の町は進駐軍であふれかえった。

■昭和21年（1946）12月に震度4～5の南海地震が起き、道後温泉の源泉の湧出が止まってしまった。道後温泉「第1号源泉」～「第4号源泉」まで全て止まってしまい、温泉に入ることができなくなってしまった。そのため、旅館・商店街には客がいなくなってしまい、大変な事態となった。この影響は市民にも広がった。当時、戦火で松山市内も焼かれ、松山市民の多くが道後温泉を利用しており、市民の半数がお風呂に入れなかった。緊急的な措置として砂湯（現在の椿の湯）に6畳ほどの檜風呂を設置し、電熱棒を入れて温めたお風呂を用意した。しかし、大変狭く、連日イモ洗い状態で人数制限を設けるほどであった。

■昭和22年（1947）1月28日。道後温泉「第1号源泉」が再び湧出を始めた。当時は再び湯が湧き出ることを祈り、様々なことが行われた。例えば、町内有志は早朝に道後温泉本館前に集合して裸足で三津浜まで行き、海水で禊をする潮垢離を行った。それ以降、湧出の感謝と再び止まることのないよう祈りを込め3月20日を湯祈祷の日と定め、毎年湯神社で祈りを行っている。



▲砂湯（提供：道後温泉事務所）



▲道後温泉本館内の祠（令和3年時点）



▲昭和中期の温泉祭りの様子（提供：道後温泉事務所）

■昭和26年（1951）加藤教授に選定を依頼した場所の1つである放生池で「第5号源泉」の掘削を行い、約51度の高温の源泉を獲得することができた。

■昭和28年（1953）に国民体育大会が愛媛県で開催されたことが内湯配湯のきっかけとなった。内湯配湯ができないことを理由に西湯・砂湯を改築し、椿の湯を建設した。しかし、宿泊客からは、わざわざ外に出ないと温泉に入浴できないことに対して不満の声が続出した。当時は現在の、まち歩きや散策の楽しみの考えはなく、旅館・ホテルで買い物・入浴・遊戯を完結させるといった考えが根強かった。

また、椿の湯は昭和59年（1984）に改築されているが、昭和28年の椿の湯の浴室の床石は松山市東消防署の玄関ポーチの床石として再利用されている。あわせて、昭和28年の椿の湯の卵型の湯釜は高齢者・障がい者が利用する「いこいの家」で再利用されている。



▲ 第5号源泉（令和3年時点）



▲ 昭和28年の椿の湯（外観）（提供：道後温泉事務所）



▲ 昭和28年の椿の湯（内観）（提供：道後温泉事務所）



▲ 松山市東消防署の床石  
（提供：  
花岡直樹建築事務所）



▲ いこいの家の卵型の湯釜  
（令和3年時点）

# 道後温泉の源泉

昭和時代

■昭和29年（1954）に利根ボーリングの塩田岩治社長に依頼し、「新源泉」の掘削が始まった（主に現在の第4分湯場付近である）。この時に掘削した源泉は「第6号源泉」～「第10号源泉」であり、湯量を獲得できた源泉は「第6号源泉」～「第9号源泉」である。この地帯の源泉を「新源泉」と呼んでいる。汲み上げ量は約2倍に上り、当時の約60の旅館・ホテルに配湯できるようになった。分湯場では道後温泉の各旅館・ホテルに配湯する際、当時はV字型の金型の角度の開きを変えて湯量を調整するなどアナログな手法で配湯を行っていた。

ただし、これらの源泉開発は「第1号源泉」、「第4号源泉」に対して影響が大きく、水位が低下し、自噴が見られなくなった。



塩田岩治社長と胸像▶  
(提供：道後温泉事務所)

■昭和33年（1958）に道後公園内の衆楽館の庭で「第11号源泉」の掘削を行い、約44度の源泉を獲得することができた。

衆楽館は明治34年頃（1901）に道後公園に建設され、明治40年（1907）には伊佐庭如矢の80歳の誕生日を祝う場所としても使用された。昭和43年（1968）に老朽化のため取り壊され現在は源泉の機械室が道後公園に残る結果となった。



▲湯量調整の金型  
(令和3年時点)

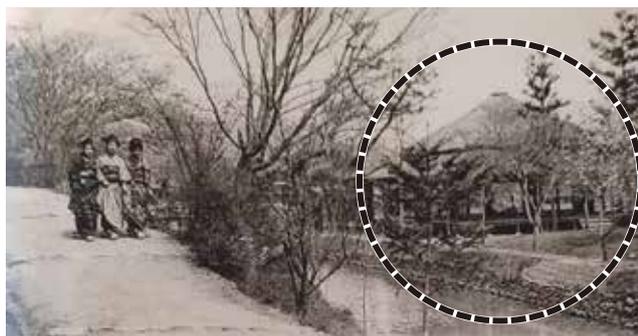
▼内湯の看板 (令和3年時点)



◀第6号源泉、  
第8号源泉～  
第10号源泉  
(令和3年時点)



▲第7号源泉 (提供：道後温泉事務所)



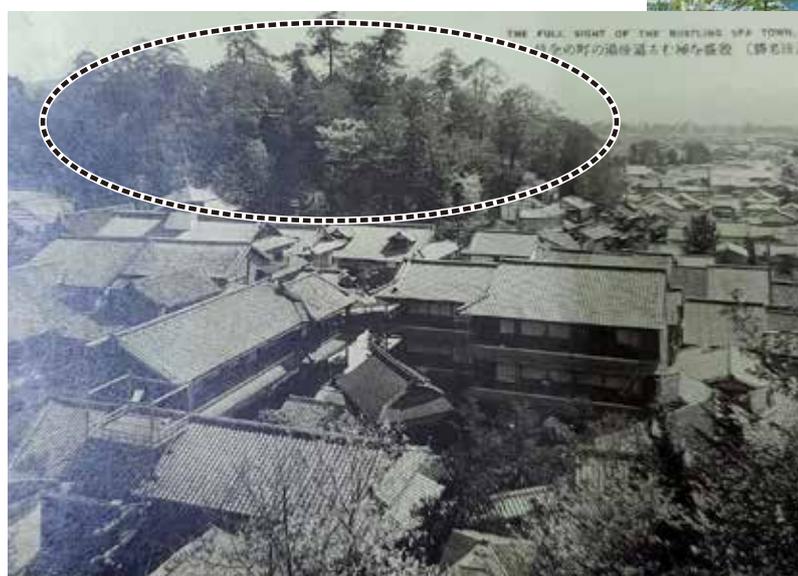
▲衆楽館 (提供：二神 将)



◀第11号源泉  
(令和3年時点)

温泉センター（提供：道後温泉事務所）  
冠山を切り開いて建設した▼

■昭和38年（1963）にレジャーブーム、奥道後温泉の建設に危機感を覚えた道後は、湯神社が鎮座する神域冠山を削り取り、「温泉センター」を建設した。プールがあり、屋上には観覧車やモノレールがあるなど、まさしくレジャー施設の機能を備えていた。しかし、思うように客足は伸びず、昭和43年（1968）に民間に経営委託され平成13年（2001）に撤去された。



▲第2分湯場（提供：道後温泉事務所）  
温泉センターを撤去したあとに第2分湯場を建設した

▲昭和初期の冠山（提供：道後温泉事務所）  
鬱蒼とした森に覆われている

## ■あとかき

道後温泉の源泉は多くの文化、行事を生んできたことがこの記述内容から見て取れると思う。道後温泉本館の又新殿・霊の湯棟は昭和初期に移築の議論が上がり、昭和中期には道後温泉本館を建替える案も浮上したそうだが。道後温泉は多くの関係者に翻弄され続け、何とか現在まで当時の趣を残しながら生きながらえてきた。また、道後温泉の要でもある源泉は水道水のように蛇口を捻れば簡単に出るようなものではなかったこと、そして今もそうでないことを少しでも多くの人々に理解していただければ幸いと願い筆を置く。

## ■参考文献

- 「道後温泉 増補版」 「海南新聞」 「道後新聞」
- 「愛媛県紳士録」 「道後で暮らす語り部の記憶」
- 「道後物語」
- 「道後温泉の研究 重見辰馬」
- 「富田喜平は語る」
- 「富田狸通は語る」
- 「二神鷲泉と道後湯之町」
- 「史跡湯築城跡 保存管理計画書」

\* 本書掲載の文章・図版の無断複製・転載を禁じます。

# 夢のファーストクラスで行くニューヨーク Missリバティの“クラウンアクセス”

西予支部 松山 清



▲リバティ島に立つ自由の女神

## 1 自由の女神とニューヨーク

“自由の女神”は世界の中心・ニューヨーク(以下、NY)にある、ことはわかっている、どんな所にあるか知っていますか? マンハッタンは南北約20km東西約4kmの細長い島ですが、その南西2kmのアップー湾に浮かぶ直径200m程のリバティ島に立っています。マンハッタンの西側を流れるハドソン川の河口で、対岸はニュージャージー州。つまり女神はNYの海の玄関に立ち、アメリカに入港して来る移民たちを出迎えているのです。この像を目

にして移民たちは新大陸への希望に夢を膨らませ、女神の北側後方1kmのエリス島にあった移民局で入国の手続きをして、そこからアメリカに上陸していました。

自由の女神は松明を掲げた右手の横にある王冠たいまつまで上ることが出来ると知って、自分が今の時代を生き証に女神の王冠まで上り、そこから見える景色をこの目で見てみようと思い、Missリバティのクラウンアクセスを企画しました。王冠の七つの角は世界の七大陸と七つの海を表し、左手には合衆国の独立宣言書を持っています。

## 2 ANAファーストクラスと特典航空券

成田空港にのみファーストクラス(以下、Fクラス)専用のZカウンターがあり航空ファン憧れになっていますが、そこでは搭乗手続きの際におしぼりが出て、ゆったりとした空間で手荷物を預けます。次々にお客が入ってきますが、待ち時間も無く快適に手続きができるのは、ANAの演出で気分も高揚します。成田ではNY行きの機体に2本のボーディングブリッジが架けられていましたが、前方側から乗り込んだのはFクラスの4人のみ。搭乗後すぐに機内用ウェアが渡され着替えました。機材は納入されればかりというピカピカのボーイング777-300ER、座席が”THE Suite”という話題のシートでかなり感動です。隣は妻の席ですが、扉を閉めると個室のようなプライバシーが確保されます。後方席はビジネスクラスで、座席が前向きと後ろ向きが交互になっていました。スタaggerシート(市松模様のフルフラット)かと思っていたので、ちょっと驚きま



▲自由の女神から見たエリス島

した。The Suiteの縦格子のイメージは隈研吾の監修で、木質の和のシックな雰囲気があります。モニターは座席一杯の広さがあって、42型と異様にでかい。客室乗務員も初めての機材なので設備の操作方法が未だわからない、と言っていた程で、降機の時ドアの塗装部分を見ると光沢がきれいで、まだ気流の汚れも着いておらず最新のおろしたてだと証明していました。

NYまでの旅はANAのマイルで特典航空券を利用。つまり無料でNYへ行けたわけです。NY行きは人気路線でマイルを使った特典航空券は絶望的だというのがマイラーの見方でしたが、トライしてみると本当に実現することができました。マイレージを知らなければ私にとって人生での損失はかなり大きいと実感しました。そのようなマイレージプログラムが現実にあるのです。「念ずれば花開く」と言いますが、旅への情熱を持ち続けるのは大切です。



▲Fクラスの“The Suite”

### 3 Missリバティのクラウンアクセス

#### 3.1 はじめてのニューヨーク

成田を2020年1月30日夕方に離陸してからずっと雲の上の飛行だったのが、五大湖が見える辺りから雲が途切れてきました。やがてハドソン川も見え始め、NYの一部ロングアイランド島にあるブルックリンとクイーンズ上空から南側の砂洲のロング・ビーチを越えて、着陸のため一旦飛行機は大西洋上にでて旋回しJ.F.ケネディ空港に着陸しました。

午後NY到着だったので、あまり無理な予定は入れず夜、マンハッタンの夜景観賞ツアーに参加しました。タイムズスクエアから車でブロードウェイを南下し、イースト川に架かるブルックリン・ブリッジを渡ってダンボへ。ブルックリンから見る夜景は世界一と言われるほど見事に絵になっているため、マンハッタンやエンパイアステートビルの写真撮影スポットなのです。自由の女神も遠くにライトアップされているのが見えました。



NYから東に続くロング・ビーチ▲



▲ブルックリンから望むマンハッタンの夜景



3.2 Missリバティに会いに行く

NY 2日目は移動を効率的にするため1日観光ツアーで市内を見て回りました。朝はもっと凍えるほどの寒さかと覚悟していたのに、普段の松山程度の冷え込みで、ラッキー！ 暖冬の影響でしょうが、マンハッタン真ん中のタイムズ・スクエアから南へNYを観光しながらロウアー・マンハッタンのバッテリーパークへ行きました。その目的は、マンハッタンの南西にあるスタテンアイランドへ行くフェリーに乗って、船からリバティ島の自由の女神と対面するためです。スタテンアイランドはNYの住宅エリアのためマンハッタンへ通勤の足として無料のフェリーが運行されており、それを自由の女神の観光に利用しよう、という訳です。ちょうど女神の前を通るので、これで一応見た、と言えなくもない。リバティ島に上陸してのクラウンアクセスは翌日挑戦します。

バッテリーパークに到着すると、ツアー客はここで車を降ろされて、この先自由行動。各自で無料のフェリーに乗船して、自由の女神を勝手に見て、そして島に着いたらすぐに折り返しのフェリーに乗って帰って来い、というミッションです。

スタテンアイランド行きフェリーでMissリバティの前を行ったり来たりした後ブルックリンへ行って、NYへ来たら是非食べてみたいと思っていた人気のロブスターロールをいただきました。ロブスターはNYの味覚なんだなあ、と思いながら、お腹もいっぱい



◀スタテンアイランド行きフェリー

ダンボとブルックリンブリッジ▼ ▲朝のタイムズスクエア



▲ロブスターロール



フェリーからのMissリバティ▲

3.3 スタチュークルーズとクラウンアクセス

女神のクラウンアクセスはNY3日目に計画。クラウンアクセスとは、自由の女神の内部から王冠まで上ることです。王冠までどうやって上るのか具体的な方法がわからず、ツアーなどで上るのかと捜してみましたが、どうやら自力でやるしかないと判明。半年前からウェブ予約してスタチュークルーズでリバティ島まで渡らなければなりません。この日のミッションはこの旅のメインであり、半年前から予約してある時間にリバティ島へ行かないと、クラウンアクセスができない、という覚悟で時間にゆとりをもって臨みました。



▲スタチュークルーズの案内板

朝早く、ホテルを出発。マンハッタン島南端のバッテリーパークにあるサウス・フェリー駅までは地下鉄で行くのが一番早いはず！ 地下鉄のタイムズ・スクエア42Street駅を捜します。この辺りの道路は高いビルに挟まれているため、朝の光が道にまで

落ちてきていません。まだ、街が目覚めていない感じで、夜のような中、地下鉄に乗り無事サウス・フェリー駅に到着。それからバッテリーパークを左に見ながら、船の乗り場を捜しているとスタチュー・クルーズの案内板を発見！ 無事にドーナッツ広場のようなチケット窓口に着きました。

午前9時になると窓口が開いて、バウチャーとチケットの交換が始まります。自由の女神と移民博物館があるエリス島のチケットを渡され、クラウンアクセスの予約がある人には緑のリストバンドも渡されます。“女神クルーズ”というお題目で、フェリーとリバティ島・エリス島の上陸がセットになっていました。

あっという間に、手荷物検査所ゲートへの長い行列ができていました。手荷物検査所を抜けると、フェリーに乗りこみます。フェリーは冬時間の運行で、始発が午前9：30。

フェリーに乗り込んでバッテリーパークを出航すると、窓からはすぐにMissリバティが見え始めました。エリス島の前は通過してリバティ島へ船は向かいます。スタテンアイランドへ行くフェリーよりも、より近くでMissリバティを見ることができました。いよいよ、ここにやって来た、という思いが込み上げてきます。

リバティ島に上陸すると、始発フェリーなので、島で働く人たちも急いで自分たちの職場へと向かっていきます。女神と反対側後方には、自由の女神博物館がありました。



▲ 台座のエントランスホール



▲ リバティ島の模型

台座の真下にある入口から中に入ると、どこかの神殿に入ったような雰囲気。リバティ島の模型もあり、左端がフェリー棧橋など様子がわかりやすい。“女神の台座&王冠へ”という表示に従って進んでいきますが、エレベータがありません。一体、どこ

に乗り口があるんだろう？と捜しながら階段を上りました。ずっと階段じゃないよね？と信じてステップを上がっていきませんが、ついにEVの乗り口はありませんでした。お年寄りと体の不自由な方のための台座部分のEVがあるのみで、一般の人は台座も階段で上ることになっているみたいです。



▲ 女神後方の入口へ向かう

女神はブロンズ像で中は空洞です。ここから先は手首に緑のリストバンドをつけた人のみがゲートを通過できます。狭い階段で、少しずつの人を係員が順番に通していました。途中の踊り場のような所で休憩しながら王冠を目指しました。

クラウンアクセスのチケットは、数ヶ月前には完売となりますが、その制限が掛けられているので、階段で混み合うことはなく、なんとか王冠に到着しました。体力にある程度自信が無いと、ここまではちょっと大変です。王冠の窓の外は、松明を持つ女神の右腕が見えています。天井の波のような模様は、女神の髪の毛です。

下りは一気に螺旋階段で台座まで下ります。今回は何と言っても、“Missリバティ”とじっくり触れ合った旅でした。



▲ Missリバティ王冠内部



▲ 女神内部の構造要素と螺旋階段



4 NYの摩天楼とマンハッタン

4.1 ワールド・トレード・センター跡地

マンハッタン南部にあるズコッティ公園はしばしば集会が開かれたり、冬の夜の木々のイルミネーションが有名ですが、公園に立つとやはり目の前のいくつかのワールドトレードセンター（WTC）のビル群が気になります。そのビル群の麓に、二つのプールがあります。かつてはそこにWTCのツインビルが建っていましたが、9.11テロで崩壊。その後この地はどう変わっていくのだろうかと心配ただけに、是非訪ねてみたかった所です。ツインビルが建っていた場所は、9月11日記念施設として保存されてプールが造られていました。それを取り囲む石の手摺りには、テロで犠牲になった人々の名前が刻まれています。プールは南プール、北プールとあって、現在その向こうに1ワールド・トレード・センター（1-WTC）ビルが聳えています。1-WTCビルは104階建てで全米一位の高さを誇り、メインの展望台は100階にあります。この辺りには、9.11 記念博物館もあり、半日くらいじっくり時間を掛けて見たい場所です。プールには、犠牲者を悼むかのように、石の名板の下から滝が流れて落ちていました。

ウォール街はWTCの東隣に位置し、NY証券取引所があります。正面の入口のギリシャ神殿のようなファサードでなかなか仰々しい印象ばかりですが、実は大きなビルの一部でした。日本のTVでは



▲ ツインビル跡のプール

▼ 周囲の犠牲者の名板



その部分だけ映されます。

さらに南のロウアー・マンハッタンへと進むと、避難階段が建物に張り付いている古いビルの光景を



たくさんみます。これは、避難階段がない建物は高い税金を掛ける、という条例ができたため慌ててビルのオーナーが外壁に非常階段を造ったそう。

◀ 1-WTCビル



NY証券取引所 ▶



◀ 古いビルの外部非常階段

4.2 エンパイアステートビルとトップオブザロック

エンパイアステートビルは5番街にあり、1日観光の最後の解散場所が屋上展望台でした。ちょっと、時代が古くなった場所かな、とも思いましたが、多くの観光客が訪れる人気の場所で、マンハッタンの展望も抜群!! ビルに入って、エレベータに乗るまで低層部の長いルートがエンターテイメント

そのもので、ビル建設中の再現やキングコングが登場してきます。やっぱりここはNY観光で欠かすことはできません。

トップオブザロックはロックフェラーセンターの屋上にある展望台で、地上259mの高さからNYを360度見渡すことができ、特にエンパイアステートビルの夜景は、この屋上からが一番きれいに見えるそうです。



▲五番街の  
エンパイアステートビル

▲建設工事中を再現

▲キングコングの演出



▲マンハッタン南方向



▲ロックフェラー展望台から見た  
エンパイアステートビル

#### 4.3 ジョン・レノンを偲ぶセントラルパーク

セントラルパークは大都会NYの中心にありながら5番街沿いで南北4km、東西0.8kmと広大で、

1850年頃から造園されました。その西側に隣接してジョン・レノンが住んでいたダコタ・アパートがあります。アパートといっても高級住宅のことで、警備も厳重。ジョン・レノンは日頃セントラルパークをジョギングしていたそうです。セントラルパークにも入って、ジョン・レノンの死後、オノ・ヨーコと当時のNY市長によって捧げられたモザイクサークルまで行ってみました。“IMAGINE”とタイトルで書かれていて、今でもジョン・レノンを偲んで、その横でニューヨーカーがギターを演奏しながら歌っていました。



▲ダコタ・アパート



モザイクサークル▼

## 5 ニューヨーク旅のレビュー

今回の旅は、Missリバティ、クラウンアクセスも重要な目的ですが、それに勝るとも劣らず特典ファーストの“空の旅”も楽しみの一つでした。もしANAマイレージを知らなかったら、NYの旅は実現していなかったことでしょう。ナッツ姫の“ナッツ・リターン”や都知事の大名旅行がトレンドとなりましたが、そんな世界も少し垣間見るという体験ができたと思います。

途中出会った日本人はNBAプロバスケットボールを見に来たという方やブロードウェイのミュージカルをいくつか鑑賞するなど様々な目的でNYへやってきました。私の場合はMissリバティを通して、日本では当たり前の「自由」という価値観を再確認し、世界の中心NYの顔に少し触れる旅でした。

## 知床旅情

会長 尾藤 淳一

♪知床の岬に はまなすの咲くころ 思い出しておく  
れ 俺たちのことを……

忘れちゃいやだよ 気まぐれカラスさん 私を泣かすな 白いかもめを ♪『知床旅情』は、森繁久彌の作詞・作曲により1960年に発表された歌謡曲で、加藤登紀子が唱って、いろんな人がカバーしているので、多分皆さんもご存じだろうと思います。

2年半ほど前に知床に行こうと言い出して、新型コロナウィルスが蔓延。ほかの事情もいろいろあり行けずにいた間、時折私の頭の中に冒頭の音楽がリフレインしていましたが、今年7月に念願が叶って、知床から釧路まで旅してきました。

旅の初日、高松発の朝一の便で羽田空港へ。羽田で2時間ほどのトランジット。まだ9時なのであまりお店も開いていませんでしたが、時間節約のため早い昼食を食べ、13時に女満別空港に到着。ヤフーの天気予報だと23℃なので、涼しさと爽やかさを予想していたのですが、なんと蒸し暑い。実際の現地気温は28℃、四国の30℃超よりは涼しいけど、やはり暑い。

最初に立ち寄ったのは、オホーツク流氷館。35、6年前に行ったことがあるのですが、2015年に建て替えられていて、新しくクリオネの展示もありました。目玉は何といっても、流氷とシバレ体験。私もマイナス15℃の室内で濡れたタオルが棒のように凍る体験をしました。



▲オホーツク流氷館

次に向かったのが、網走監獄博物館。ここも30年ほど前に来たことがあります。その時より綺麗に維持されている印象がありました。本来の網走刑務所は別の所にあり、博物館として保存するために移築されたということです。この網走監獄は、明治時代にロシアからの脅威に対抗するため、旭川からの輸送路を建設する労働を重犯罪者にさせました。監獄は、その犯罪者の収容施設でした。現代は、ウクライナにロシアが武力侵攻していますが、いつその矛先が日本に向かってくるかもしれません。時代は進んでも抱えている脅威は、変わっているわけではなくて、多くの日本人が忘れていただけなのかもしれません。



▲網走監獄博物館



▲網走監獄博物館



▲網走監獄博物館



▲網走駅

網走駅前に、アイヌ民族より前に暮らしていた民族の像がありました。アイヌ民族より大きかったそうです。その民族はどこから来たのかわかりませんが、当然その時代は現在のような国家という概念も境界線もなかったと思います。ただ異民族同士が、生き残っていく為に土地の所有を争ったということでしょう。現在のウクライナで起きている戦争では、どちらが勝っても何もいいことはないのです。早く平和的な解決をしてほしいです。

2日目、いよいよ知床半島へ向かいます。まずは知床五湖の散策。向かう道中、車を止めて撮影している人を見つけました。鹿だろうか？ いえ、なんとすぐそこにヒグマが……。その人たちは、車から降りて撮影していましたが、とっても危険です。皆さんはくれぐれも真似しないように。知床は世界自然遺産になっていて、人の関与が制限されています。知床五湖の散策では、熊ガイド同伴でないと入れません。知床は、火山活動により形成された急峻な知床連山、山麓を覆う原生的な森林、切り立つ海岸断崖、多様な湿原・湖沼など様々な景観が凝縮され、優れた自然美を有していて、アイヌ語で「地の果て」という意味です。ウトロ漁港



▲知床五湖



▲知床五湖



▲知床



▲知床

まで戻ってきて、午後から遊覧船に乗り、海から海岸線を見学しました。冬場は流氷や寒風にさらされ、極寒の自然環境を力強く生き抜いている動物たちの気高さを感じました。

夜は「北こぶし知床リゾートホテル」に宿泊しましたが、温泉の泉質もよく、特に露天風呂を出た後寝そべて涼める場所があり、青い空を見ながら、カモメの声を聞いて

いると最高に気持ちよくなりました。夕刻には気温もすっかり下がり、北海道らしい気候を満喫しました。今年の事故以来、ウトロ漁港が何度もテレビに出て有名になりましたが、そこは漁業と観光ホテルだけの街で、昼に食堂で聞いたのですが、夜はどの店も開いてないそうです。近くの番屋では、若い漁師たちが昼間から宴会中で、夕方にはみんな寝て、次の漁に備えるのだらうなと思いました。ウトロ漁港の短い夏は、事故があったことを忘れたようにゆったりとしていました。

3日目、知床を離れ、屈斜路湖・硫黄山・摩周湖を見て、釧路へ。釧路でのメインは、釧路湿原です。ここは1万年ほど前、湿原はなく縄文人が暮らしていました。地球温暖化とともに海面が上昇し、釧路湿原のあるところは、海の中になりました。それが今から6000～4000年前に地球が氷河期に入ると、徐々に水が引くとともに、泥や砂がたまった湿原が出現したといえます。湿原の東側にある塘路湖、シラルト口湖、達古湖は、かつてたくさんあった湖沼の名残で、海跡湖と呼ばれています。

釧路湿原は北海道の東側、太平洋から内陸に向かって広がる湿原で、釧路市、標茶町、鶴居村、釧路町の4つの町村にまたがっていて、釧路湿原国立公園に指定されている面積は約2万8000ヘクタール。東京23区がすっぽり収まってしまう大きさです。地球は定期的に温暖期と氷河期を繰り返しています。釧路湿原が再び海になってしまうことがあるのかわかりませんが、海になってしまうとここで生息している多くの生き物は行き場を失うかもしれません。そうすると釧路湿原だけのことでなく、我々人間にも少なからず影響があることでしょ



▲釧路湿原



▲釧路湿原

ここで毛綱毅曠氏を紹介します。彼は北海道釧路市出身の建築家で、作品は釧路市湿原展望資料館、釧路市立博物館（日本建築学会賞作品賞）、釧路フィッシャーマンズワーフMOOなどで、四国には丸亀市立城乾小学校があります。今回は、釧路市内の3、4の施設を見せて頂きました。作風は、丸みを帯びた壁面を見せるような建物が多かったと思います。全国に数々の建物を残した一方、施工者泣かせであると同時にメンテナンスにも難があるといわれているそうです。



◀ 釧路市立博物館

終わりに、今回は道東地方のオホーツク側と太平洋側を見てまいりました。気候的には、夏はオホーツク側が暑く、太平洋側は涼しいそうです。冬は逆にオホーツク側の寒さは厳しいそうです。土も凍るので、道路の舗装は凍結して持ち上がり、補修が追い付いていません。建物基礎は、1m以上入れておかないといけないそうです。食事は海産物が中心で、素材が良い分、逆にそれほど凝った料理がない印象でしたが、釧路駅前にあるジンギスカン料理店（店名はここでは控えます）で食べた、生マトンが絶品でした。観光的には、どうしてもゴルフでもしない限り、夏場に自然を中心に見て回るようになりますが、覚悟を決めて冬場の厳しさを体験して、何日か静かに過ごすのもいいかもしれません。最後に掲載するのは、レトロな旅情を掻き立てる釧路駅です。



釧路駅▶

# 恒例！愛媛県建築士事務所協会と親睦合同ゴルフコンペ

総務・企画委員会 委員長 井上 竜治



▲松山ゴルフ倶楽部

毎年恒例となっている愛媛県建築士事務所協会との親睦合同ゴルフコンペが5月26日(木)松山ゴルフ倶楽部で開催されました。新型コロナウイルスの感染状況によっては中止となる可能性もあり心配しましたが、感染対策として開会式は行わず、マスク着用、手指消毒、検温をし体調管理もしながら、笑顔で無事開催でき、これが総務・企画委員として私の大事な初仕事となりました。



▲スタートホールの各組の記念撮影（やる気感じます）！

コロナ渦でいろいろな行事が中止となる中、みんな自粛！自粛！！で、ウズウズしていたのか！？会員相互の親睦も図れていなかった影響！！？参加者68名と、とても多くの参加がありました。ありがとうございました。

そしてもう一つの心配事は天気です。これは、私が頑張ってもどうすることもできないので祈るばかりでした。

前回は土砂降り、傘が手放せないような状況で、「今年は、雨、大丈夫かな！？」といろんな人に声を掛けられましたが、それだけは何とか避けたいと願っていました。その甲斐あってか、天気は何とか曇りで雨は降らなかったの「ホッ」としました。

あとは、各自のプレーを楽しんでもらうだけ。結果はすべて自分の実力次第。

言い訳はできない中、各組親睦を図りながら、好プレー珍プレーがあったようで、プレー中は久しぶりの笑顔にあふれていました。



▲優勝者と記念撮影！

結果は、ダイキアクシスの阿部陽一郎さんがOUT 41、IN 41、GROSS 82で優勝しました。閉会式でみんなの「お疲れ様！ありがとう！」の言葉に癒され、ケガやコロナ感染もなく、無事開催できたこと、参加者、皆様に感謝して、来年は愛媛県事務所協会にバトンを渡します。ありがとうございました。

組名	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
1 山本 浩	41	41	62	10.8	73.2					
2 山内 真司	47	43	90	18.0	72.0					
3 藤久 泰	44	42	86	12.0	74.0					
4 林 尚彦	58	49	103	20.8	74.2					
5 大野 賢治	41	43	84	9.6	74.4					
6 三宅 美保	42	42	84	9.6	74.6					
7 玉置 昭博	41	39	77	2.4	74.6					
8 三好 孝一	49	39	87	12.0	75.0					
9 三好 一心	54	51	105	30.0	75.0					
10 久保川 雅也	61	47	98	22.8	75.2					
11 中山 博樹	46	46	92	16.8	75.2					
12 村上 竜也	50	42	92	16.8	75.2					
13 浅野 進也	51	47	88	12.0	75.2					
14 島田 隆二	49	49	96	24.0	75.5					
15 坂口 敏彦	49	41	89	13.2	75.8					
16 大野 賢治	58	47	106	28.8	76.2					
17 松岡 隆一	44	49	87	12.0	76.2					
18 北原 仁	44	40	83	15.6	76.4					
19 石野 孝夫	48	45	97	24.0	76.6					
20 浅野 進也	46	51	97	20.4	76.6					
21 山本 浩	39	39	78	1.2	76.8					
22 中川 剛	45	30	83	6.0	77.0					
23 藤原 大樹	47	42	89	12.0	77.0					
24 山内 真司	58	49	107	30.0	77.0					
25 大野 賢一	47	49	95	18.0	77.0					

組名	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
26 大野 賢一	50	46	95	18.0	77.0					
27 志村 立賢	47	47	94	16.8	77.2					
28 門田 武典	44	43	87	6.0	77.2					
29 藤川 正典	40	44	92	14.4	77.6					
30 松本 光浩	46	52	98	20.4	77.6					
31 河野 一博	49	47	92	14.4	77.6					
32 大野 賢一	52	49	98	20.4	77.6					
33 藤川 正典	49	41	90	12.0	78.0					
34 松本 浩	50	44	94	15.6	78.4					
35 松本 光浩	50	54	104	25.2	78.8					
36 大野 賢治	49	40	89	6.0	79.0					
37 山口 真二	45	46	91	12.0	79.0					
38 上野 尚史	51	40	91	12.0	79.0					
39 西原 淳人	50	46	96	16.8	79.2					
40 藤川 正典	58	50	109	28.8	79.2					
41 河野 幸治	52	40	102	21.6	79.4					
42 藤川 正典	62	53	113	32.4	79.4					
43 松本 浩	52	43	95	15.6	79.4					
44 松本 浩	48	46	94	14.4	79.8					
45 山口 真二	57	46	105	25.2	79.8					
46 松本 浩	52	49	98	16.8	80.0					
47 高橋 祥子	54	55	109	28.8	80.3					
48 藤川 光平	55	43	102	21.6	80.4					
49 山内 真司	53	50	100	21.6	80.4					
50 藤川 賢司	48	47	95	14.4	80.6					
51 田村 雅彦	62	49	105	25.2	80.6					
52 中野 誠夫	55	62	117	36.0	81.0					
53 藤川 進也	55	56	111	30.0	81.0					
54 山内 真司	62	55	117	36.0	81.0					
55 松本 光浩	50	52	102	21.6	81.6					
56 大野 賢一	49	46	99	13.2	81.6					
57 藤川 進也	57	56	111	30.0	82.2					
58 藤川 進也	62	54	116	33.6	82.4					
59 藤川 進也	57	61	119	34.8	82.4					
60 佐々木 昭博	58	60	126	32.4	83.2					
61 藤川 進也	58	62	117	33.6	83.4					
62 藤川 進也	65	58	128	36.0	84.0					
63 土橋 健雄	67	52	109	24.0	85.0					
64 藤川 進也	65	56	121	36.0	85.0					
65 藤川 進也	53	61	114	28.8	85.2					
66 藤川 進也	69	59	127	34.8	87.2					
67 藤川 進也	63	57	120	32.4	87.6					
68 藤川 進也	65	61	126	36.0	90.0					

▲成績表

# 「青年・女性建築士の集い 中四国ブロック高知大会」 地域実践活動報告

青年委員会 委員 大内 雄志

開催日：令和4年6月11日

参加者：現地参加24人 WEB参加5人

去る令和4年6月11日に、青年・女性建築士の集い  
中四国ブロック高知大会に参加してまいりました。

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、昨年の山口大会と一昨年の愛媛大会の悔しい中止から3年ぶりの開催となりました。

今回は地域実践活動報告に登壇するという重い大役を仰せつかりました。発表テーマは「建築巡礼」です。この建築巡礼は松山支部で2009年から2018年まで10年間活動してきた建築士の日のイベントで、毎年一般の方を対象とした建築物を巡るバスツアーです。

9年前、愛媛県に仕事の転勤で移り住み、初めて建築士会の活動に参加したイベントがこの建築巡礼でした。そんな活動のきっかけになったイベントを地域実践活動報告で発表する事になるのも「何かの縁だな…」と感じながら引き受けたことを覚えています。



▲「浴衣」と「道後温泉の法被姿」で発表

何より大変だった事は資料作りと台本の暗記です。資料作りには、和田さん、白石さん、西森さん、そして私のパートナーとして発表補助をしてくれた清水さんと、住宅センターさんの会議室をお借りして、夜遅くまでレクチャー、アドバイスをいただきました。

まずは建築巡礼の歴史を紐解き、開催のきっかけや巡礼した建物、参加者からいただいたアンケート結果などに目を通し、【建築巡礼】の骨格を調べて学ぶところからのスタート。そんな資料の中に点在するさまざまな10年分の出来事を、一つ一つ落とし込みながら発表資料を作成します。

特に2回登壇され、全国大会も経験している西森さん

からのアドバイスは非常に厳しく、優勝への近道は、「台本は持ってはいけない」「衣装で目を引いてとにかく派手におもしろく」などなど…やはりさすが経験者です。

当日は緊張であまり記憶がありませんが、「浴衣」と「道後温泉の法被」を身にまとい発表しました。その結果見事、最優秀賞をいただくことができました。



▲発表補助の清水さんとのツーショット

初めはほとんど話したことのなかった補助の清水さんとも打ち合わせやリハーサルを重ねるにつれ、呼吸が合うようになってきて、本番のちょっとした私のミスも、うまくリカバリーしてくれて本当に助かりました。

道後温泉本館から法被をお借りいただいた花岡支部長、あの法被が最優秀賞を手繰り寄せてくれました。

そして、この地域実践活動の発表に携わっていただいた方々にこの場をお借りして改めて感謝お礼申し上げます。支えていただき本当にありがとうございました。

10月の全国大会は、愛媛県そして中四国を代表して大暴れしてきます。そして日本一になります！

引き続き応援くださいますようお願いいたします。



▲愛媛の応援団と

# 令和4年度女性会員総会報告

女性委員会 委員長 下元 美恵

開催日：令和4年7月2日(土) 16:30～

場 所：愛媛県建築士会館 会議室

参加人数：対面参加9名 Web参加3名

上記日程にて、女性会員総会を行いました。本年度も対面開催とZOOMとの併用で、尾藤会長、花岡担当副会長にもお忙しい中ご参加頂き、終始和やかに開催いたしました。

委員長に就任して初めての総会。また、ZOOMとの併用。機械に不慣れなこともあり、どうなる事やらと思っておりましたが、準備等沢山の方に助けて頂きながら無事開催することが出来ました。この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。

昨年度の事業報告・収支決算、今年度の事業予定と予算について諮ったところ、全会一致で承認いただきました。以下にご報告させていただきます。(抜粋)

## (1) 令和3年度 事業報告

### ●実施したもの

- ・6月 中四国B理事会(zoom会議 2名参加)
- ・7月 第2回女性委員会(対面・zoom 6名参加)  
女性会員総会(対面・zoom 6名参加)
- ・11月 中四国B理事会(zoom 2名参加)
- ・2月 中四国B臨時理事会(zoom 2名参加)

### ●やむを得ず中止になったもの

- ・中四国B山口大会
- ・全建女(福岡大会中止)
- ・南予見学会
- ・新年会
- ・暮らし+(プラス)勉強会
- ・スキルアップセミナー
- ・異業種勉強会

残念ながら、昨年度はコロナ禍のため、例年継続しております各種勉強会が全く実施できない結果となりました。中でも、8月に防災勉強会を予定し、募集まで終了しておりましたが、直前のコロナ拡大で施設が利用できなくなり、やむを得ず中止となりました。

## (2) 令和4年度 事業計画(抜粋)

- ・6月 中四国B高知大会(対面・zoom 6名参加)
- ・7月 全建女(東京)(対面・zoom 参加)  
分科会にて発表
- ・8月 防災勉強会
- ・11月 南予見学会  
第3回女性委員会
- ・1月 新年会  
第4回女性委員会
- ・未定 暮らし+(プラス)勉強会
- ・未定 第5回女性委員会

以上がご報告となります。

コロナ禍前は、女性会員総会と言えば！ 美味しいスイーツと飲み物を頂きながら和やかに楽しく会員相互の親睦も深めておりました。そんな気持ちを察して下さったのか(笑)、尾藤会長から嬉しい差し入れ。



▲ほっこりなごみの元

慣れないZOOM併用会議に緊張したみなさんの心に、ほっこりをもたらしてくださいました。ありがとうございました。

昨年同様コロナの状況により、事業実施内容に変更が生じるかもしれませんが、出来る事、出来る形を委員のみなさんと模索しながら、会員の皆様が楽しめる活動をしていきたいと思っております。ぜひ、委員会活動にご参加くださいますよう、お願い申し上げます。

最後になりましたが、日ごろから女性委員会の活動にご理解・ご協力を頂いている皆様、ありがとうございます。引き続きよろしく願い申し上げます。

# 全国女性建築士連絡協議会 分科会 「愛媛の古建築を訪ねての本が できるまで」報告

日時：令和4年7月18日(月・祝)  
9:00~11:00  
場所：愛媛県建築士会館1階会議室／日本建築学会建築会館会議室／zoom  
参加人数：20名(内訳)愛媛県建築士会7名、東京会場参加者7名、オンライン参加者6名

## 全建女での発表の依頼をいただいて

松山支部 西浦 郁子

女性委員会へ所属してから何度、全建女に参加したでしょうか。女性委員会では年齢制限が無いので、女性会員の中でも参加回数は多い方だと思います。全国から参加の方々の意見を聞いて刺激を受け、自分達も頑張らねばと活動に身が入ったように思います。数年前からは、世代交代を考え参加は控えるようになりました。

昨年、久しぶりに会った大塚さんから「西浦さん、もうひと踏ん張りお願いしますね。」と声をかけられ、何々?と思っていたところ、文化財・まちづくり委員会で作成した「愛媛の古建築を訪ねて」という本の経緯の発表の依頼でした。女性委員会は卒業したし、本の作成も一人でしたわけでもないし、人前でしゃべりも未だに自信がないしと思いつつ、人に頼みごとをした時に気持ちよく受けて頂けると依頼人としては大変助かるという気持ちを思い、受けることにしました。

偉そうに受けたと言っても、私は部分的な発表のみで殆ど峰岡委員長に段取りいただき、花岡元委員長や発起時の寺尾元会長の出演で場を盛り上げて頂き、大塚さんの上手な司会や永井さんのITフォローなどでいい感じに終えることができました。

本の編集委員に選んで頂き、今回の発表にも選んで頂き、33年間の調査に関わられた士会員を差し置いて私事の人生を語らせて頂いたことは、とても有難く光栄なことです。本来なら平々凡々な人生だったと思うけど建築士会に入り、色々な行事や勉強会に参加することで沢山の学びがあり、老若男女問わず建築に関わる仲間ができました。思い出も沢山できました。感謝の思いを込めて、もう少し文化財・まちづくり委員会で頑張りたいと思います。

元編集委員 松山支部 峰岡 秀和

「委員会の本つくったやろ、あの話をまとめて講演してほしいんやけど」—大塚さんからそんなお話をいただいたのが1月? だったかと思います。大塚さんにアドバ

イスをもらいながら、西浦さんと二人三脚での内容作成でした。実際に話を始めたのが5月。あれよあれよと月日は経ち、最終的に出来上がったのは7月14日、本番4日前でした。大塚さんにはずいぶんご心配をおかけしてしまつたと反省しています。



▲ 題名「愛媛の古建築を訪ねて」の本ができるまで編集が大変で当初30年の記録が33年になってしまいました

本になるまでの話を受けたのは光栄なことで大変うれしく、講演の題も早々に決まったのですが、それから進みませんでした。考えれば考えるほど苦労話しか出てこず、75分間苦労の発表会になってはもったいないと思い、まとめを考えていたためでした。

ですが、講演では33年間の記録をまとめてこられた委員長の紹介や愛媛県建築士会の活動、サポートして下さった女性委員会の紹介など、西浦さんのヒントで幅広くまとめる事ができたのではないかと考えています。



▲ヘリテージマネージャー 講座での講義



▲講座修了生に証書を渡す 寺尾元会長(右)と花岡委員長(左) (ヘリテージマネージャーの事もチラリ) (女性委員会の調査協力の紹介)



▲H14 宮田家



また、ここでしか聞けない関係者の直接インタビューなど、動画も入れながら作成しています。後々連合会の

HPで配信されるとのことです。皆さん、ぜひご覧ください。

## 分科会発表をサポートして

女性委員会 副委員長 永井 由起

全建女のF分科会として、「愛媛の古建築を訪ねて」の本について紹介することになりました。愛媛の事例が全国の会員さんに報告されることは、とても誇らしいことです。

わたしは当日、愛媛県建築士会館からのサポートを仰せつかりました。本番2週間ほど前からzoomを用いた打ち合わせを重ね、連合委員を務められる大塚さんが東京に出立する前日にはリハーサルも終わりました。

当日、元会長の寺尾保仁さん、発表者の西浦さん、峰岡さん、小原さんと一緒におそろいの愛媛県建築士会オレンジポロシャツでスタンバイ。花岡さんはzoomでの参加となりました。事務局のみなさんも駆けつけてくださいました。

東京でのリアルの参加者、オンライン参加者を含めてもコンパクトな分科会でしたが、たくさんの質問をいただきました。オンラインでは女性委員会委員長の下元さんもご参加くださいました。調査対象はどこから探してくるのかという質問や、時代が進むにつれて各地の古建築が存続の危機にあるなどのご意見を伺うに、古建築を取り巻く問題は全国変わらないようです。参加者の中には、愛媛で学生時代を過ごした方もいらっしゃったようです。

公の機関から依頼があったわけでもなく、たくさんの資金があったわけでもない、建築士会の会員の有志の皆さんが33年間、連綿と努力し続けてきた結果、このような立派な本が完成したのだと実感しています。

残念でならないのは、発表当日、折角おそろいのポロシャツだったのに、愛媛参加者の写真を撮り忘れたことです。オンライン参加者の皆さんと合わせてスクリーンの前で撮影すればよかったのに……！と悔やまれてなりません。

分科会の模様は、近いうちに配信されます。事前撮影の個人の映像が、ある方は額がしっかり映っていたり、ある方はインタビュー当初は原稿を読み上げている感じなのが、だんだんと熱が入るとご自身の言葉で話されていったり。発表者皆さんの努力と情熱をご覧ください。

まだ多少は(?)書籍の在庫がありますので、この素晴らしい本を多くの人に読んでいただきたいと願っています。

す。ご自身で購入するのは勿論、興味のある方には是非、ご紹介ください！



▲東京会場の様子



▲東京会場の様子



▲zoom画面

最後に

今回、この本の素晴らしさを全国の皆様に伝えたい！との無茶ぶりに、お応えいただき大変感謝しています。おかげさまで無事に分科会を開催する事ができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

令和2～3年度連合会女性委員 大塚美由紀

# 松山支部より

松山支部 支部長 花岡 直樹

令和2年4月から松山支部の支部長をさせていただいていますが、2年度に続き様々な活動が新型コロナウイルス感染防止のための自粛に追い込まれ、通常行われていた行事、活動がほとんどできなかったという残念な2年間になってしまいました。

そんな中で、今年度こそはなんとか持ち直し、できることから地道に活動を再開しようと思われた、令和4年度の支部総会の報告をさせていただきます。（諸事情で大変遅くなったこと、お詫び申し上げます）

## <支部総会の報告>

1. 日 時 令和4年4月19日(火)  
18:00~18:30
2. 場 所 松山建設会館 2階 会議室
3. 出席者 出席29名
4. 黙とう 物故者 1名
5. 開会

井上副支部長より、松山支部正会員507名中、出席312名（委任状含む）で、本総会は支部規約第15条第1項に定める定足数の3分の1以上が出席しており、成立している旨の報告をした。

続いて、支部規約第9条第1項の規定により、花岡支部長が議長となり審議を進めた。

## 6. 議事

第1号議案 令和3年度事業報告の承認について

第2号議案 令和3年度収支決算の承認について  
徳永監事より監査報告を行った。

議長より、第1号議案、第2号議案について諮ったところ、異議なく議決された。

第3号議案 令和4・5年度役員承認について

3月17日開催の役員選出委員会にて選考され、第1回理事会で承認された名簿を提示し説明を行った。仮議長より第3号議案について諮ったところ、異議なく承認された。（新役員の名簿は、愛媛県建築士会松山支部ホームページに掲載しています）

第4号議案 令和4年度の事業計画決定について

第5号議案 令和4年度の収支予算の決定について

議長より、第4号議案、第5号議案について諮ったところ、異議なく議決された。

以上、議案の審議等を18時30分に終了した。

このあと特別功労者表彰を行った。

特別功労者表彰：武内邦彦氏

功労者表彰：白石学氏、永井由起氏

感謝状贈呈：該当者なし

特別表彰を受けられた武内邦彦さんには、支部長退任後のこの2年間も常任理事として我々後進の指導にあたられました。事務能力に乏しい新米支部長を助けてくださり、感謝に堪えません。今後も相談役として支部活動を暖かく見守っていただきたいと思います。



▲ 総会の様子



▲ 支部長挨拶



▲ 功労者表彰の様子

今年度も新型コロナウイルスの収束もままならない中、「ウィズコロナ」ということでのいろいろな活動を続けてきていますが、7月になってまたまた爆発的な数で感染拡大が進んでいます。先は見えませんが、じっと足を踏みしめながらできることを見つけて活動していきたいと考えています。

何度も申し上げますが、私の基本理念は「人材育成」です。みんなで力を合わせて松山支部を盛り上げていきましょう！ 特に若い方々のご協力を期待しています。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

# 【企画】三津浜を散策しながら 親睦を深めよう！

松山支部 南地区 高須賀 範昌

(公社)愛媛建築士会 女性委員会が作成された『三津浜MAP  
2020.10.14作成分』を活用し、三津浜を散策する企画をい  
たします。



上記QRコード：愛媛県建築士会 松山支部HP  
三津浜MAP記事

\*\*\*\*\*

実施日：令和4年10月23日(日)

対象者：松山支部 南地区の会員及び、ご家族・知人など

担当：松山支部 南地区 高須賀範昌

090-2781-4818

\*\*\*\*\*

詳しくは、下記のホームページ等をご覧ください。

愛媛県建築士 松山支部HP  
「エリア別活動」→「南地区」  
<https://matsuyama-shikai.com>

フェイスブック  
「愛媛県建築士会 松山支部 南地区」

※新型コロナウイルスの感染状況で中止することもあります。

# 好きなこと。

松山支部 西山 ゆか

菅野様よりバトンを受け取りました、松山支部の西山ゆかです。現在は主に住宅リフォームの設計・現場管理のお仕事をしています。

高校進学のと時期が来た頃、当時の私はとにかく働きたい!!何がしたいのかも無いまま働きたいと話したのですが…周りからとにかく高校には行きなさいと言われ、絵が得意だった訳でもないのにデザイン科に入学。高校でデザインを学ぶうちに、今度はやりたい事がいっぱいになっていました。当時はカフェではなく喫茶店でしたが、いつか自分のお店を持ちたい!そのお店を自分で設計したい、そんな思いから建築設計の専門学校に入学しました。就職活動を始めたころ、25年以上前になりますが、これからはリフォームの時代が来るからリフォームの会社に就職すると面白いと思うよ、とのアドバイスがあり、住宅リフォームの仕事をするようになりました。

数社の建築会社でお勤めさせていただいたり、大工だった父の元で大工をしていた妹と父のところで働いたり。今は女性の職人さんも多くなりましたが、20年前には建築現場に女の子がいるのは珍しく、釘袋を腰から下げた女の子が2人いる現場だったので、みんなに大事にしてもらいました。現在の勤務先で建築士会に入るきっかけとなった最高の上司に出会いました。とにかく仕事が好きで、いつもお客様の事を一番に考えてバタバタ走り回っている姿を見てると、私も元気になります。一生懸命お仕事すぎてお客様のところにカバンを忘れてきたり、車のカギをいつも探していたり、そんな上司に最近似てきたんじゃない?とよく言われます。一緒にいる時間が長いからでしょうか?でも似てきたねって言われるのが嬉しかったりもします。この場をかりてこっそりメッセージ「いつまでも一緒にお仕事して下さい。まだまだ教えて欲しい事もいっぱいです。」

会社と今のお仕事が好きです。好きなことを仕事にできて、同じ思いで現場に入ってくれる職人さんに囲まれて子育てと仕事を両立しやすい環境で働かせてもらって、本当に恵まれた環境でお仕事できることに感謝です。

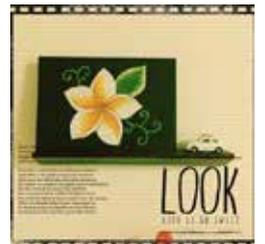
まだまだ分からないことも多く、日々の業務をこなすことで精いっぱいですが……これからは少し自分の時間を充実?老後に向けた準備もしていけたらと思っています。今は県外へ行ったりお出かけしたり少し自由に動くのが難しいですが、タイルやガラス・木材等の材料や建築物を見に行く時間を作るのが今の目標です。最近はい

ンターネットでの情報量が多く、お客様に今まで知らなかった建材を教えていただくことも度々。家造りは何度でもできることではないので、担当させていただきお客様に満足していただける提案ができるよう、まだまだ勉強しないと!!と思います。

あまりイメージはないようなのですが、実は物作りが好きです。梅をいただいたら梅シロップを作ったり、お野菜をいただいたら野菜のスイーツを作ったり、少し時間と手間のかかる生活が好きです。好奇心旺盛で興味を持った事はとりあえずやってみるのでチョークアートや水引、多肉植物を育てたり色んな事をやるものの極めていいるものはなく今年は美味しいコーヒーを入れたいと思い、本を買ったり焙煎所めぐりを楽しんでます。



▲レモンシロップ



▲チョークアート

少し自分の時間を作ることで、また新しい世界が広がっていくかなと思います。

休日はコーヒー好きの私と調理師を目指す娘でカフェめぐりをするのが一番の楽しみです。そんな娘が最近いつか自分のお店を持ちたいから、その時はお店作ってくれる?って言うてくれるのです♪建築の勉強を始めるきっかけとなった自分のお店を設計するという夢は少し違った形で実現するかも?と思うと今日もまた頑張れるのでした。



▲多々羅大橋



▲ところミュージアム 大三島

写真は文章とは関係ないのですが、実家の大三島の好きな場所です。

文章を書くのは本当に苦手です。まとまりのない内容ですが、読んでいただき有難うございます。

今回は私の勤務する株式会社栗田工務店代表取締役の谷本憲介さんをお願いします。

# 建築今昔と私

宇和島支部 池田 千代一



宇和島支部の池田千代一と申します。正直言って「パス！」と避けたいところですが、幼なじみでもある藤井氏からのバトンでは拒否もできず、文盲の私が筆を執ることとなりました。拙い文章ですが、どうぞお付き合いください。

45年前、兄の影響を受け愛媛県立吉田高等学校建築科に進学し建築の基礎を学び、卒業後は地元の設計事務所に入社しました。

その当時は、まだ第一次産業の景気も良く、外観は屋根には菊間瓦、壁は土壁の焼杉板張り、切妻屋根や入母屋屋根の和風建築で、部屋内は一間半の床の間に8帖＋6帖の続き間をとり、床の間の横には書院そして広縁という大工の腕の見せ所満載の家屋が主流でした。



▲ 思い出の和風建築

20代のこの頃は、携わる物件の全てが勉強の連続で、棟梁に梁サイズや現地での組み方としてレッカーの位置を考慮し、遠い位置から手前に向けて組み立てる事など現場でしか学ぶことのできない経験を沢山させて頂きました。

上棟式に参加させていただき、できた骨組の上に上がり野地板を屋根の上に並べる作業をやらされた事もあります。今では、年齢的にも体重的にも、させてもらえませんが(笑)。

上棟といえば、ひと昔前は当たり前だった上棟式をされる施主様は減少の一途で、家相を気にする施主様もほぼ皆無になりつつあります。

その一方で、TVやYouTubeによる情報やイラスト、チラシ等で知識を得て、本職である私たち設計士より新しい情報や知識を持って打合せに臨まれる若い施主様が

増えてきました。

コロナ以降、衛生意識の高まりから玄関に入って直ぐに手洗いができる間取り、シューズクローゼットの設置、子供の様子が見える対面キッチン希望されるケースが増えてきました。

勝手口を設けるよりパントリーを要望され、和室は不要で、せいぜいリビングの隅に畳コーナーを設ける程度です。

脱衣室・風呂場・トイレに窓は要らない・花粉症・PM2.5問題等で外部物干しスペースは要らない・玄関→洗面・脱衣場→リビング・キッチンを回る回遊式の間取りが好まれ、タンスを使用しなくなりクローゼットが当たり前となっています。



▲ 回遊同線のある家

学生時代に習った、日本の風土に合った風通しの良い家から、箱の中で効率良く換気・空調・照明を活かした生活をする気密住宅へと変貌したのです。

そして、瓦・床柱・欄間に凝った、我が家自慢の男社会の昭和は既に遠く、共働き夫婦が暮らしやすさや家事動線を重視した間取りが主流の時代になったのです。

人々の暮らしに密接な関わりを持つこの仕事は、常にアンテナを高く持ち続ける事を必要とされます。

年々変わる建築基準法、人々の生活様式の変容や価値観の多様化、刻々と変わる社会情勢、それらを踏まえた住宅の在り方を想うとき、正解や完璧というゴールのない世界で自分なりに一生懸命走ってきたなあという感慨深い思いがします。

あと何年続けられるか分かりませんが、生涯建築設計士として現役であり続けたいと考えています。

今回は私の一年後輩になります兵頭友義さんへバトンを繋ぎます。よろしくをお願いします。

# 令和4年度通常総会概要報告

## 令和4年度通常総会議事録

開催通知日 令和4年5月20日  
 総会日時 令和4年6月15日(水)  
 15:00~16:05  
 会議場所 ANAクラウンプラザホテル松山  
 南館エメラルドルーム

### 総会成立宣言

渡辺事務局長より、当会の令和4年6月15日現在の正会員数は、1,257名、本日の出席正会員38名、委任状782名を含め、合計820名であること。定款第18条に定める定足数（正会員の過半数の出席）を満たしているため有効に成立していることを宣言した。

### 議長選出

定款第16条の規定により、出席理事の内から選出することとなっていることから、出席正会員に諮った結果、松山副会長を選出した。

### 議事録署名人指名

森昇平氏、花岡直樹氏の両名を指名した。

### 議案第1号～第6号について

(事務局：渡辺常務理事より説明)

### 議案第1号 令和3年度事業報告及び収支決算について(計算書類)【議決】

令和3年度事業の重点施策の実行状況、個別事業及び収益事業等の実施状況並びに収支決算状況について説明した。また、元根監事より総会資料により監査報告があった。

◆令和3年度事業報告及び収支決算について、松山議長が諮ったところ、全員異議なく、原案通り議決された。

### 議案第2号 令和4年度事業計画及び収支予算の決定について【報告】

令和4年度事業計画及び令和4年度収支予算について説明した。また、経常収益55,789千円、経常費用60,483千円で4,694千円の赤字予算となったことを説明した。

◆松山議長から意見を求めたところ、意見なく、報告を終了した。

### 議案第3号 令和4・5年度本会役員(理事・監事)の選任について【議決】

本会役員(理事・監事)候補者について説明した後、議長より理事候補者及び監事候補者ごとに選任の賛否を行ったところ、委任状と合わせて過半数の賛成により次の者が選任された。

◆令和4年6月15日をもって就任を承諾し、決定した理事、監事

理事：尾藤淳一、岸良一、宮崎秀俊、越智忠美、森昇平、武内邦彦、花岡直樹、渡辺大記、神田孝一、林一夫、松山清、與那原浩、和田崇、下元美恵、井上竜治、大塚美由紀、大西勝秀、渡辺修

監事：水口喜久美、藤井英樹

議案第4号 入会金及び会費の一部免除について【議決】  
 会員増強運動(キャンペーン)について説明した。

◆松山議長が諮ったところ、全員異議なく、原案通り議決した。

### 議案第5号 令和4・5年度年度本会会長、副会長、常務理事について【報告】

第2回理事会を開催した結果、次のとおり会長、副会長及び常務理事を選定したことを報告した。

会長：尾藤淳一(代表理事)

副会長：花岡直樹、松山清

常務理事：宮崎秀俊、武内邦彦、渡辺修

### 議案第6号 令和4・5年度委員会委員について【報告】

令和4・5年度委員会委員について令和4年5月17日第1回理事会で議決したことを報告した。

●総会終了

## 第2回理事会概要報告

会議日時 令和4年6月15日(水)

15:45~15:55

会議場所 ANAクラウンプラザホテル松山  
 南館エメラルドルーム

### 定足数報告

理事渡辺修より、定数18名中18名出席につき、本理事会の定足数の過半数が出席しているため、本理事会は成立していることを報告。

### 議長選出

本来ならば、定款の定めにより会長又は副会長が議長を務めるが、会長及び副会長が決まっていないため、理事渡辺修において議事を進行することを一同に諮り、全員異議なく了承され、議事に進む。

### 議事

### 議案第1号 会長、副会長、常務理事の選定について【議決】

理事渡辺修より、定款第22条第2項の規定により、次期の会長、副会長、常務理事を理事の中から選定したいことを諮ったところ、全員異議なく次のとおり選定された。なお、令和4年6月15日をもって全員就任を承諾し、決定した。

会長：尾藤淳一(代表理事)

副会長：花岡直樹、松山清

常務理事：武内邦彦、宮崎秀俊、渡辺修

### 議案第2号 名誉会長の選定について【議決】

定款第29条第1項の規定により、前会長の赤根良忠氏を名誉会長に選定したいことを諮ったところ、全員異議なく選定された。

### 議案第3号 相談役の選定について【議決】

定款第29条第1項の規定により、元会長の本田壽氏を相談役に選定したいことを諮ったところ、全員異議なく選定された。

●理事会終了

※詳細については、本会事務局へお問い合わせください。

## あなたの原稿をお待ちしています。

公益社団法人として、異業種や全ての皆様から建築士会の枠を超えて原稿を広く募集して広く購買して頂くようにしています。是非、寄稿して頂きますようお願い致します。本年度は年6回発行となります。(尚、営業的色彩の濃いものにつきましては、掲載されない場合もありますので、ご了承ください。)

### 「いしづち」の次号の原稿締切日

令和4年 11月号 (149号) 令和4年9月29日(木)

※校正印刷の関係で締切延長の最終期限は一週間後の木曜日とします。

※1ページ写真込みで2150文字(25文字×43行×横2段)のWORD様式を事務局で用意していますのでご活用ください。

写真は1ページ当たり3枚程度まで題名を付けて添付してください。

また宜しければ投稿者の写真(免許写真程度の顔写真)を添付してください。

会員の皆様のご参加をお待ちしております。また記事等についてのご意見・ご感想もお寄せください。

(尚、投稿された原稿につきましては、要旨を変えない程度の若干の訂正等を加えることがあるかもしれませんので予めご了承ください。)

この誌面を通じて、会員の方々、そして一般の方々にも、建築についての対話等の輪が広がればと願っています。 情報・広報委員会

## 読者の声欄

「いしづち」に関するご意見・ご提案などをお寄せください。お待ちしております。

「いしづち」編集委員会(土会事務局内)宛  
FAX 089-948-0061

## 編集後記

11月号からVuA(ブイユーエー)一級建築士事務所 道上壯氏による新企画の連載がスタートします。

道上氏は、河原学園、愛知産業大学、総合資格学院など多くの講師や先生をされており、現在の建築から将来の建築について精通しており授業をされています。

その中でも将来の建築について、「メタバース建築」「デジタル・アーキテクト」「建築と人新世(アントロポセン)」「コピペ建築」などのテーマで連載予定です。

同じ建築の分野でありながら、普段触れることのない内容だと思います。読んで頂くことで新しい建築の在り方や考え方を知ることができ、今の仕事に活かせるのではないかと考えています。私も連載が楽しみでなりません。皆さんも楽しみにしてください。

### 〈いしづち〉2022/9

令和4年9月発行

発行人 会長 尾藤淳一

発行所 公益社団法人 愛媛県建築士会

〒790-0002 松山市二番町四丁目1-5 愛媛県建築士会館2F

TEL(089)945-6100 FAX(089)948-0061

<http://www.ehime-shikai.com>

印刷所 アマノ印刷株式会社

情報・広報委員会・広報委員

委員長/大平 将司 副委員長/渡邊 道彦

編集委員/河合 優志 西岡 亜有美 西森 勉 花岡 晶子